

新しい契約

シリーズ～預言者の声～

2022/8/21

南ユダ王国の王たち(後期)

- ヒゼキヤ(BC729-687) 善王(イザヤの時代)
- マナセ(684-643) 悪王 / 善王
 - アッシリアに連行されて悔い改め善王として統治
- アモン(643-641) 悪王
- ヨシヤ(641-609) 善王
 - エレミヤの召命(ヨシヤ王の第13年)
- ヨアハズ(609)
- ヨヤキム(609-598) 悪王 > 兄弟
- ヨヤキン(598) 悪王
- ゼデキヤ(597-586) 悪王 > 兄弟

エレミヤの時代

- 異教崇拜（十戒の第一戒を破る）
 - 「ユダよ、お前の町の数ほど神々があり、お前たちはエルサレムの通りの数ほど、恥ずべきものへの祭壇とバアルに香をたくための祭壇を設けた。」11:13
- 誤った選民思想（神殿理解）
 - 「主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなしい言葉に依り頼んではならない。」7:4
- 偽預言者の横行
 - 「預言者の言葉はむなしくなる。『このようなことが起こる』と言っても／実現はしない。』」5:13

エレミヤを通しての警告

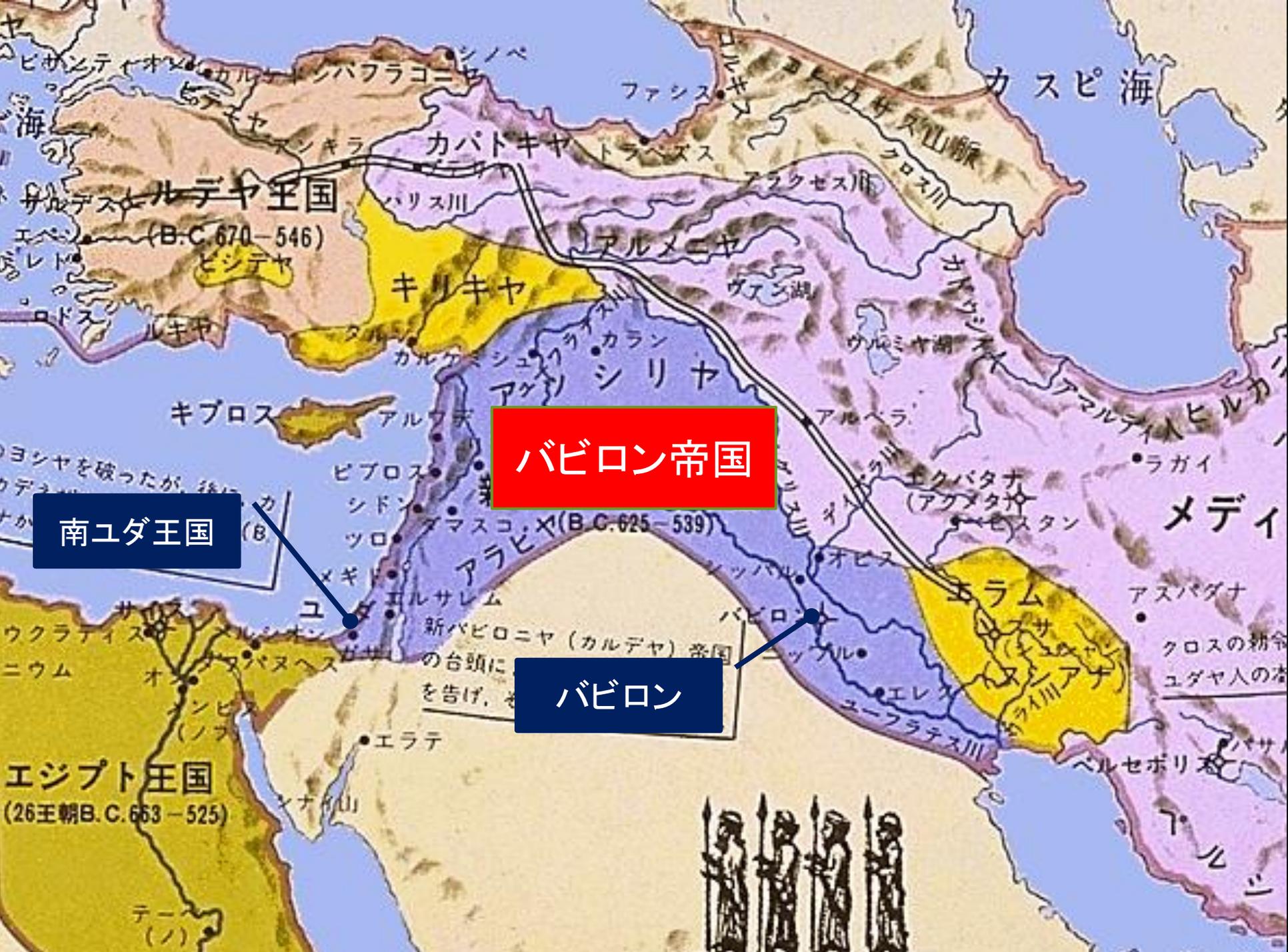
主は言われる。「それは、彼らに与えたわたしの教えを彼らが捨て、わたしの声に聞き従わず、それによって歩むことをしなかったからだ。」彼らは、そのかたくなな心に従い、また、先祖が彼らに教え込んだようにバアルに従って歩んだ。それゆえ、イスラエルの神、万軍の主は言われる。「見よ、わたしはこの民に苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。彼らを、彼ら自身も先祖も知らなかった国々の中に散らし、その後から剣を送って彼らを滅ぼし尽くす。」(9:12-15)

主の言葉を燃やした王

バルクは答えた。「エレミヤが自らわたしにこのすべての言葉を口述したので、わたしが巻物にインクで書き記したのです。」…(ヨヤキム)王はユディを遣わして、巻物を取って来させた。彼は書記官エリシャマの部屋から巻物を取って来て、王と王に仕えるすべての役人が聞いているところで読み上げた。王は宮殿の冬の家にいた。時は九月で暖炉の火は王の前で赤々と燃えていた。ユディが三、四欄読み終わるごとに、王は巻物をナイフで切り裂いて暖炉の火にくべ、ついに、巻物をすべて燃やしてしまった。このすべての言葉を聞きながら、王もその側近もだれひとり恐れを抱かず、衣服を裂こうともしなかった。(36:17-24)

バビロン捕囚

- 1回目(ヨヤキム王の4年／BC605年)
 - 神殿の宝物が奪われ、眉目秀麗な若者がバビロンに連れて行かれた(ダニエルら) (ダニエル1:1-2)
- 2回目(ヨヤキム王の11年／597年)
 - 「バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、青銅の足枷をはめ、バビロンに引いて行った。」
(歴代誌下36:5-6)
- 3回目(ゼデキヤ王11年／586年)
 - エルサレムに残っていた多くの人々が殺された
 - 生き残った者のほとんどはバビロンに連行された
 - 城壁は崩され、神殿には火が放たれた
(歴代誌下36:12～19)



バビロン帝国

南ユダ王国

バビロン



エレミヤ書31章29～36節

その日には、人々はもはや言わない。「先祖が酸いぶどうを食べれば／子孫の歯が浮く」と。人は自分の罪のゆえに死ぬ。だれでも酸いぶどうを食べれば、自分の歯が浮く。見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。

すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

主はこう言われる。太陽を置いて昼の光とし／月と星の軌道を定めて夜の光とし／海をかき立て、波を騒がせる方／その御名は万軍の主。これらの定めが／わたしの前から退くことがあろうとも／主は言われる。イスラエルの子孫は／永遠に絶えることなく、わたしの民である。

「新しい契約」の約束

- 古い契約(律法)は祝福と呪いの契約だった
 - 「見よ、わたしは今日、あなたたちの前に祝福と呪いを置く。」(申命記11:26)
- 契約を破り、呪いを受けた民
 - 「わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。」
- 「来たるべき日」に結ばれる「新しい契約」
 - 「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と**新しい契約**を結ぶ日が来る、と主は言われる。」
 - 「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。」

「新しい契約」の特徴

- 集団ではなく個人との契約である
 - 古い契約(律法)はイスラエル民族全体と主との契約であった
 - 「先祖が酸いぶどうを食べれば／子孫の歯が浮く」とは、全体責任を意味している
- 互いに教え合う必要はない
 - 「そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、『主を知れ』と言って教えることはない。』すべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。」

「新しい契約」の中心

- それぞれの心に記される契約である
 - 「すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、**彼らの心にそれを記す。**」
 - 古い契約は「石の板」に記されたが…
- 罪が完全に赦される契約である
 - 「わたしは彼らの悪を赦し、**再び彼らの罪に心を留めることはない。**」
- 新しい契約により、永遠に神の民となる
 - 「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」「イスラエルの子孫は／永遠に絶えることなく、わたしの民である。」

ヘブライ8章6～10節

しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。もし、あの最初の契約が欠けたところのないものであったなら、第二の契約の余地はなかったでしょう。事実、神はイスラエルの人々を非難して次のように言われています。「『見よ、わたしがイスラエルの家、またユダの家と、新しい契約を結ぶ時が来る』と、主は言われる。『それは、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らはわたしの契約に忠実でなかったので、わたしも彼らを顧みなかった』と、主は言われる。

『それらの日の後、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『すなわち、わたしの律法を彼らの思いに置き、彼らの心にそれを書きつけよう。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。』

こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。(9:15)

キリストによる新しい契約

- 集団(民族)ではなく個人との契約

- 「福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。」

ローマ1:16

- 十字架の贖いによる完全な罪の赦し

- 「ところが実際は、世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました。」ヘブライ9:26

- 心に記された(信仰による)契約

- 「けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。」ガラテヤ2:16